

農学生命科学部サテライト端末室と教育面から見たネットワーク環境

農学生命科学部 藤崎浩幸
fusa@cc.hirosaki-u.ac.jp

1. 農学生命科学部サテライトの現状

農学生命科学部 4階 434室には、総合情報処理センターのサテライト端末室として、教員用 1台、学生用 40台のコンピュータが設置されている。

(1) 授業での利用

農生サテライト端末室において開講されている専門科目は前期 1科目、後期 1科目の計 2科目である。ちなみに、総合情報処理センターで開講されている専門科目は、前期 2科目、後期 1科目である。これは、現在、農学生命科学部を構成している 4つの学科の学生定員が最少の学科でも 40名であり、端末台数ギリギリであるためである。しかし、2008年 4月から 5学科体制となり、最も学生定員の多い学科でも 40名となるため、これまで総合情報処理センターで行っていた授業が農生サテライト端末室に移行する可能性はある。

また、講義の一部で農生サテライト端末室を利用している専門科目や大学院の科目も、例年いくらか存在している。

以上が農学生命科学部においてコンピュータを用いた授業を行う必要がある専門科目のすべてであり、授業での利用だけで考えると、週あたり 3コマ程度しか端末室を必要とする授業が存在しないこととなる。

それぞれの授業において、何のためにコンピュータを利用しているかをシラバス等から整理すると、Web を利用した情報収集、Excel を利用したデータ分析は共通しており、その他 PowerPoint、SPSS、分子モデリング、CAD、Linux、C 言語などが分野に応じて利用されている。

(2) 授業時間外における学生の学習のための利用

農生サテライト端末室の利用で重要なのが、授業時間外での学生利用である。総合情報処理センターの利用状況の Web ページ (<http://www.cc.hirosaki-u.ac.jp/riyo/index.html>) によると、農生サテライト端末室の設置台数あたりの利用時間や利用件数は、総合情報処理センターの教室並みの利用状況で、学内でも上位に位置していることがわかり、学生の勉強場所として、大いに活用されていることを示している。

これは、卒業研究のため研究室に配属されるまでの間、自前のコンピュータを所有していない学生にとっては、農生サテライト端末室のコンピュータが、最も手軽に利用できるコンピュータとなっていることを意味している。そして農学生命科学部においては、コンピュータを直接利用する授業があまり多くないとはいえ、レポート作成をはじめ予習や復習に際し、コンピュータ利用を前提としている授業がかなり存在することを示唆している。

学生の利用マナーは、スリッパの使い方が乱雑だという声もある一方で、ゴミの放置などもあまりなく、比較的良好的なようである。学生によっては、農生サテライト端末室は隣席との間が小さく部屋も狭いため、閉塞感を感じるのも、総合情報処理センターや総合棟を利用するという声や、カラープリンタがないこと、ある学科では印刷枚数の制限が厳しい、といった声もあるようだ。

(3) Webカメラ

農生サテライト端末室には、2004年2月にWebカメラが設置された。設置目的は盗難防止と利用状況の確認、サテライト使用マナーの向上である。農生サテライト端末室にWebカメラが設置されていることは、室内に掲示されており、カメラの存在も目立つことから、Webカメラ設置後、学生の利用マナーが良くなったと評価する声がある。

2. 農学生命科学部の教育面から見たネットワーク環境

(1) 講義室の有線LAN

農学生命科学部のすべての講義室には、有線LANコンセントが設置されている。教員がパソコンとLANケーブルを講義室に持参すれば、講義に関連したWebページや自分でWebサーバに置いた講義資料の提示を行うことが可能である。

しかし、この利用のためには、事前に総務係にネットワーク接続機器接続申請書を提出し、講義室用の教員固有のIPアドレスの交付を受けた後、パソコンのネットワーク設定を、その都度講義室用に変更することが必要となり、使い勝手はよくない。

また、利用は教員に限定されており、学生利用は認められていない。

(2) 無線LAN

2005年5月に農学生命科学部に無線LANのアクセスポイントが6台設置された(この経緯については、福澤*を参照)。これにより大半の講義室と図書室、学生控室において、無線LANによる学内ネットワークへの接続が、教員のみならず学生にも可能となった。

この無線LANでは、DHCPサーバ機能を利用することによりネットワーク接続機器接続申請が不要となる上、総合情報処理センターで既に取得しているユーザー名とパスワードでログインできることから、無線LAN機能を有したパソコンさえ用意できれば、有線LANと比べはるかに容易にネットワークに接続できる。

しかし、2007年度(2007年4月～2008年2月)の利用状況を見ると、利用者は31ユーザ(教員13、学生18)で、このうち利用日数が10日以上なのは9ユーザ(教員6、学生3)にとどまっていて、あまり利用されていない。学生についてはノートパソコンを携帯するものが少数である可能性も考えられるものの、より一層の無線LAN活用についての案内が求められるであろう。

なお、農学生命科学部での無線LAN接続認証は、全学で現在導入されているものと異なる方式となっている。

3. 今後の農学生命科学部のサテライト端末室と学習面から見たネットワーク環境

今日の大学においてネットワークに接続したコンピュータを利用できる環境は、図書やトイレと同じくらい当たり前の基盤である。サテライト端末室は学生の自学自習の拠点としてその重要度はますます高まるであろう。また、学生、教員を問わず、農学生命科学部内の講義室でも農場でも、総合教育棟の講義室や総合図書館でも、弘前大学のネットワークに、同一の認証方式で、手軽にかつ安全に接続できる環境が望まれる。

* 福澤雅志「農学生命科学部本館無線LANの構築」弘前大学総合情報処理センター広報 HIROIN No. 23, pp. 53-56, (2006)